

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 7 部門第 3 区分
【発行日】 令和 5 年 2 月 28 日 (2023.2.28)

【国際公開番号】 WO2022/210210
【出願番号】 特願 2022-536862 (P2022-536862)
【国際特許分類】
H 0 1 Q 15/14 (2006.01)
【F I】
H 0 1 Q 15/14 Z

10

【手続補正書】
【提出日】 令和 4 年 8 月 12 日 (2022.8.12)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】

【請求項 1】

20

高周波領域の電磁波が透過する際に、該電磁波を拡散させるために用いられ、電磁波遮蔽性を有する電磁波遮蔽層を備える高周波拡散シートであって、

前記電磁波遮蔽層は、当該高周波拡散シートの平面視においてパターンニングされており、前記電磁波遮蔽層の厚さ方向に貫通する開口部を有し、

前記開口部の平均幅を W [mm]、前記電磁波の波長を λ [mm] としたとき、 W/λ は、 0.5 以上であることを特徴とする高周波拡散シート。

【請求項 2】

前記電磁波遮蔽層は、電磁波を反射または吸収させることで前記電磁波を遮蔽するものである請求項 1 に記載の高周波拡散シート。

【請求項 3】

30

前記電磁波遮蔽層は、金属薄膜層、または、金属粉とバインダー樹脂とを含んで構成される金属粉含有接着層である請求項 2 に記載の高周波拡散シート。

【請求項 4】

当該高周波拡散シートは、透明性を有する樹脂フィルムを有し、前記電磁波遮蔽層は、前記樹脂フィルムに接合して設けられている請求項 1 ないし 3 のいずれか 1 項に記載の高周波拡散シート。

【請求項 5】

当該高周波拡散シートは、電磁波が透過する際に、前記開口部により、電磁波が回折されることで、拡散するよう構成されている請求項 1 ないし 4 のいずれか 1 項に記載の高周波拡散シート。

40

【請求項 6】

前記 W/λ は、 1.0 以下である請求項 1 ないし 5 のいずれか 1 項に記載の高周波拡散シート。

【請求項 7】

前記電磁波遮蔽層は、その平均厚さ T が $0.01 \mu\text{m}$ 以上 $70.0 \mu\text{m}$ 以下である請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 項に記載の高周波拡散シート。

【請求項 8】

前記電磁波の周波数は、 1 GHz 以上 80 GHz 以下である請求項 1 ないし 7 のいずれか 1 項に記載の高周波拡散シート。

【請求項 9】

50

前記電磁波遮蔽層は、半透明性または不透明性を示す材料を含み、前記開口部よりも微細な大きさで形成された、前記電磁波遮蔽層の厚さ方向に貫通する貫通孔を複数有し、

前記貫通孔を可視光が透過することで、当該高周波拡散シートの反対側に位置するものの視認性が付与されている請求項 1 ないし 8 のいずれか 1 項に記載の高周波拡散シート。

【請求項 10】

当該高周波拡散シートは、建築物が備える、電磁波の透過が許容される透過領域に貼付して使用される請求項 1 ないし 9 のいずれか 1 項に記載の高周波拡散シート。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

10

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

このような目的は、下記(1)～(10)に記載の本発明により達成される。

(1) 高周波領域の電磁波が透過する際に、該電磁波を拡散させるために用いられ、電磁波遮蔽性を有する電磁波遮蔽層を備える高周波拡散シートであって、

前記電磁波遮蔽層は、当該高周波拡散シートの平面視においてパターンニングされており、前記電磁波遮蔽層の厚さ方向に貫通する開口部を有し、

前記開口部の平均幅を W [mm]、前記電磁波の波長を λ [mm] としたとき、 W/λ は、0.5 以上であることを特徴とする高周波拡散シート。

20

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

(6) 前記 W/λ は、1.0 以下である上記(1)ないし(5)のいずれかに記載の高周波拡散シート。

30

40

50